

第1学年 学級活動指導案

日 時：平成14年 10月 18日 (金) 5校時
児 童：1年2組 (男12名女14名計26名)
指導者：高 橋 眞 理
場 所：教 室

1 題材名 こうつうあんぜんパトロール

2 題材について

(1) 題材について

特別活動の A 学級活動 (2) では、日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関することの一つとして、心身ともに健康で安全な生活態度の形成が挙げられている。

これを受けて、本題材では道路歩行に関わる交通安全指導を行う。道路歩行は普段慣れている事とは言え、まだまだ衝動的に行動する事が多い1年生の児童にとって危険を伴うものである。そこで交通安全指導は児童を交通事故から守り、社会人としての交通ルールを身につけ、安全な生活をしようとする自覚を育てるための価値ある教育活動である。道路には思わぬ危険が潜んでいることに気付かせ、自分の身を守るための道路歩行の仕方を正しく理解させることで安全な生活をしようとする態度の育成を目指したい。

(2) 児童について

学級の児童は、春の交通安全教室において、校庭で安全な交差点の歩き方を確かめた。しかし、学校生活に慣れてきたと同時に、道路歩行にも気の緩みが見えてきており、安全な登下校をしているとは言い難い。本校の学区は交通量が多い上に路地が多く、道路歩行ではより注意が必要である。

事前調査では、「道路を歩いていて危ない思いをしたことがあるか」という問いに対し、26人中24人が「はい」と答えていた。内訳としては道路への飛び出しや停車中の車の陰を歩いていて車にひかれそうになったケースが多かった。また「道路を横断する時に手を挙げて渡っているか」という問いに、26人中25人が「はい」と答えていたが、普段の様子を見ると、手を挙げないだけでなく、右左をよく確かめないで横断している児童がよく見られている現状である。

コンピュータ操作では、図工の学習でコンピュータの起動・終了の仕方や基本的な操作の方法を学習した後、お絵かきソフトでのお絵かきを楽しんでいる。2学期からは昼休みのコンピュータ室の開放で、児童個人がお絵かきソフトやゲームソフトでさらにコンピュータに慣れ親しんでいる段階である。その他、国語や学級活動においてコンピュータを使って学習してきているが、教師が操作する画面を見ながら学習を進めている。

(3) 指導にあたって

本題材では、安全な道路歩行の大切さを感じるような場面を設定し、実践への意欲化を図りたい。そこで子供達に馴染みが深い学校前の長崎街道と国道45号線を取り上げる。二つの道路を歩いている動画を示し、シミュレーション道路歩行で体験させたり、実際に動作化をさせたりしながら、交通ルールを理解させていきたい。さらに交番の方からのお話を聞かせ、交通安全への意識付けをしたい。なお、事後指導として、生活科、道徳、学校行事などに関連させながら実践化を図りたい。

(4) 題材におけるコンピュータ活用

本題材では、道路歩行をしている様子の動画を教師が操作しながら提示する。児童は、思わぬ危険が潜んでいることをシミュレーションで疑似体験する事により、道路での危険の多さに気付くであろう。そして、交通ルールを守ろうとする意識を高めることができるのではないかと。

3 題材の目標

◎自分の身を守るために、進んで交通ルールを守ろうとする態度を養う。

(関心・意欲・態度)

道路を歩く時のルールに気付き、安全な歩行の仕方に関心をもつ。

(知識・理解)

安全な道路歩行のために必要な交通ルールを理解する。

(技能)

状況を判断し、安全な道路歩行ができる。

4 指導計画 (2時間)

活動内容	時間	コンピュータ及び周辺機器の使い方
・安全な道路歩行のルールを確かめる。	1時間 (本時)	コンピュータ・ビデオ・プロジェクター (シミュレーションの道具・課題解決の道具)
・実際に校外に出て、歩行練習をする。	1時間	

5 本時の指導

(1) ねらい

危険を予測し、進んで交通ルールを守ろうとする態度を養う。

(関心・意欲・態度)

・道路を渡る時のいろいろな危険を考え、安全な歩行の仕方に関心をもつ。

(知識・理解)

・安全な道路歩行のために必要な交通ルールを理解する。

(2) コンピュータ活用の視点

道路で起こり得る危険をスクリーンに映し出して疑似体験することで、児童が課題意識を持ち、意欲的に課題を解決しようとするのではないか。

○〈使用者〉教師 〈場面〉展開 シミュレーションの道具として
課題解決の道具として

○使用ソフト Photo Shop LE

○周辺機器 デジタルカメラ ビデオカメラ プロジェクター

(3) 展開

◎主発問 ●指示 ◇支援 ☆評価

段階	学 習 活 動	主発問と指示・予想される反応	支援と評価の工夫
つ か む 5 分	1 学習内容をつかむ。 2 学習課題をつかむ。	◎みんなにお手紙がきています。 ◎今日はみんなで交通安全のパトロールに出かけることにしましょう。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">どうろのあんぜんなわたりかたをおぼえよう。</div>	◇長崎街道と国道を安全に歩行するためにはどうしたらよいか考えをさせるような手紙で意欲をもたせたい。 ◇紙板書で確認する。
見 通 す 5 分	3 安全な道路歩行の仕方を考える。	◎道路を渡る時、どんな事に気をつけたらいいでしょう。 ・右左をよく見て道路を渡る。・車に気をつけて渡る。	◇普段の生活を想起させ、交通安全パトロールへの見通しをもたせる。
ふ か め る	4 長崎街道での道路の安全な歩行について考える。	◎では、学校を出発して行ってみましょう。 ◎（横断歩道を渡る場面）車にひかれそうになりましたね。どうしてでしょう。 ・右左を見なかったから・車が来ないか確かめなかったから・手を挙げなかったから ●右左をしっかり確かめるようにやってみましょう。 ◎（路地で急いで飛び出す場面）自動車にぶつかりそうになりました。どうしてでしょう。 ・右左を見なかったから・飛び出したから ●横断歩道がないところも右左をよく確かめてやってみましょう。 ◎（車の陰から飛び出す場面）車にひかれそうになりましたね。どうしてでしょう。 ・車の陰からも来ると思わなかったから ●ではここまで、おさらいしてみましょう。	◇コンピュータ・プロジェクター（シミュレーション・課題解決） ◇横断歩道を渡る時に急に車が来るように映像を操作し、横断歩道を歩く時も車が来ないか確かめる事を理解させる。 ☆右左を確かめて横断する事が分かったか。（観察） ◇全体で動作化したり、大事なことを板書したりすることにより、理解が深まるようにする。 ◇路地から車が出るように映像を操作し、横断歩道がないところでも車が来ないか確かめる事を理解させる。 ☆右左を確かめて横断する事が分かったか。（観察） ◇全体で動作化したり、大事なことを板書したりすることにより、理解が深まるようにする。 ◇停車の陰から車が出るように映像を操作し、飛び出しの危険を理解させる。 ◇コンピュータ・プロジェクター（シミュレーション・課題解決） ◇これまで覚えた事を映像を使いながら動作化して、安全な道路歩行の理解を図る。 ☆道路の安全な歩行の仕方が分かったか。（観察・挙手） ◇全体で動作化したり、大事なことを板書したりすることにより、理解が深まるようにする。

段階	学習活動	主発問と指示・予想される反応	支援と評価の工夫
ふかめる 30分	5 国道での道路の安全な歩行について考える。 6 交番の方のお話を聞く。	◎（黄信号での横断場面）横から車が来ましたね。どうすればよかったのでしょうか。 ・次の青まで待てばよかった・渡らなければよかった ●ではここまで、おさらいしてみましょう。 ◎交番のおまわりさんからの話を聞きましょう。	◇コンピュータ・プロジェクター（シミュレーション・課題解決） ◇黄信号で横断途中で車が来る場面を出し、信号のある交差点での安全な横断の仕方を理解させる。 ☆信号のある交差点での安全な横断の仕方が分かったか（観察） ◇大事なことを板書し、理解が深まるようにする。 ◇ビデオ（意欲の喚起） ◇交番の方からの話を聞き、安全な道路歩行への意欲をもたせる。
まとめる 5分	7 今日の学習をふりかえる。 8 次時の学習内容を知る。	◎安全な道路の歩き方・渡り方が分かりましたか。 ◎感想を発表しましょう。 ●今度は道路で今日覚えた安全な歩き方をみんなでやってみましょう。	☆本時の課題について自己評価をさせる。（挙手） ◇今日学習したことをもとに、これからの意欲付けを図る。

(4) 評価

(関心・意欲・態度)

- ・道路を渡る時のいろいろな危険を考え、安全な歩行の仕方に関心をもつことができたか。
(挙手・観察)

(知識・理解)

- ・安全な道路歩行のために必要な交通ルールを理解することができたか。(挙手・観察)

6 板書計画

